Ｂｏｙｓ Ｌｏｖｅみそひともじ彷徨拾遺

ぶどううり・くすこ

Ｂｏｙｓ Ｌｏｖｅみそひともじ彷徨拾遺

ぶどううり・くすこ

二〇〇八年七月三日に開設し、現在まで運営し続けているブログ

「ＢｏｙｓＬｏｖｅ みそひともじ彷徨」

（旧題 『ＢＬ みそひともじ彷徨』 http://blogs.yahoo.co.jp/xqo_gm）にて

ほぼ毎日詠んだボーイズラブに題材を採った短歌の中から抜粋して

メールマガジン「仇花の記憶」 （http://xqo.ooh.jp/mag/bn/index2.html）にて

配信したものをまとめて電子書籍に仕立ててみました。

お愉しみ戴ければ幸いです。

ぶどううり・くすこ 葡萄瓜ＸＱＯ）

カッターシャツ肌蹴無邪気に寛ぎぬ想われ人の静かな残酷
見慣れない水泳帽に胸焦がしついでついでと言い訳し買う
焼け残る肌の境を露にすその無邪気さを憎む一瞬
ひっそりと紙縒りに想い忍ばせて憎まれ口の短冊吊るす
仇想い言い果せるが負けなれば口の端にて静かに笑みて
夏草の薫りに紛れ漂いぬ熱き奔りの残り香なるか
汗臭き背中に吾を問い質し少し身を退く還れぬ様に
スタスタと並び歩ける状況をほんの少しは嬉しく思う。
玉の汗苦き思いでそっと拭く無邪気な頃を思い返しつ
思い立ち洗いに出したる学ランの残り香惜しむ茹る午後かな

自転車の並ぶ道行き嬉しくて抜きっ抜かれっ風光りたる

ともがらの団扇重ねる昼下がり爪先ばかりただ突付き合う

置き傘を並べ乾しいる昼下がり埃一粒愛しくなりて

学食の席隣り合うそれだけの縁では足りぬと欲しがってゐる

博愛の人抱きしめる空しさぞ沈めど弾まぬ布団の如く

嬉しさと不安同居す初日なれ四十日の重み再認

岐阜提灯一人寝床の枕元ゆらゆら廻る静かに廻る

彼是と予定ばかりが駆け巡る先ず誘うという関門潜らず

甚平を試着し合うも恥ずかしくその肩越しに汗の香を聞く

連れ立って歩くだけでも気恥ずかし普段見慣れぬ互いであれば

かはたれの河原寝乱れ草しとね二人繋ぐは何の楔ぞ
つるみあい遊ぶついでに絡み合いガキの遊びと誤魔化してみる
戯れと紛らせみても狂おしく面影形代ばかり増え行く
牡の香がこびり付きたる朝の部屋敷布の上でシャツ絡み合う
学校と違う水着に戸惑いて眺む水面のまた乱反射
起き抜けに探り探られ枕元激しき名残に又汗をかく
想い人身をすり抜ける酷薄に肉が誠と言わんばかりに
蝉の声如何に聴くかと思案する吾身を重ね苦笑しつつも
空調で冷えきってゐる部屋の中君の手だけが只管熱く
さり気無くネクタイの柄揃えいて逆方向へと宮仕えする

結び目に呪いそっと織り交ぜる解けぬ恋なぞ無いと哂いつ
登校日鏡の中の顔笑うその胸元に紅が一片
凍りつく時計の針を只見つめ凝りし海の中で戯る
賢しらな素振は疾うに見透かされ静かな熱に射竦められる
筆選ぶ僅かに揺れる指先を静かに隠す賢しらぶって
恋文を静かに裂いて紙縒りとし心を綴じる一顧だにせず
漉きかえす薄墨紙の合間から漂ってゐる熟れた熱情
緩やかに時の染めいる文反古の其の色合いの語るものあり
柄に無く呪い文を綴り居る吾さえ惑う熱に浮かされ
言い尽くす事も時には虚し事黙すも大事只冷ややかに

二週間 一人で過ごすだけの事その間に重ねる時もまた良し。
枝手折る幹隠すまいと枝手折る花の残しは煩くなき様
週明けて貴方は還る日常 へ僕の休みは後二週間
ふと落ちた栞代わりの御神籤にまだ祈っている縁の継続
参考書折ある毎に読み返す余白の恋文読みたさ故に
口元の 一筋の紅手を合わす己の器の浅さを呪い
身を震う懐炉要らずの頃過ぎて布団の温みも実用として
追い追われ月太陽の距離感か間の地球も現実に居る
ネクタイを共に選ぶも逢瀬なる静かに散らすネタの応酬
脳内の血潮ばかりが熱くなる 「いっそこのまま」獣が誘う

恋詰る言葉にそっと背を向ける常識ばかりで情無き故に
雪はただ淡々淡々降り溶ける伝える事せぬ恋にも似て居
手を繋ぐただそれだけの事なれど常識邪魔する恋も挫ける
学ランにのそり蒸気をかけている残り香抜ける事厭いつつ
連休と浮かれてばかりの僕を見てあなた溜息手に参考書
マフラーを借りたは良いが立ち往生さり気に強き君が残り香
日めくりを破り取る手の恨めしやいっそ時計も壊したくなり
餅を焼く喰えとばかりに次々と観せた惑いのその腹癒せに
遠くから臨むばかりの灯であればいっそ途絶えて坏と嘯く
淡々と面を照らす電飾の赤緑往還心の如く

とっとっと鳥居の朱の褪せている二人の日々を反映しつつ
朝の群れ携帯電話に何を訊く吾ただ一人恋歌をきく
ひらひらとポインセチアの矢車が二人の心射すくめていて
柿残る標の如く点るごと恋の迷いを導く様に
透かし観る血潮の熱さ信じたくされど身を退く傷に怯えて
おちこちを作り出すのも只心惑いに溺れ何見失う
蜘蛛の糸誰の為にぞ強くなる視えぬ糸故尚更なるか
溺るまい透けたる糸故慎重に元は儚き想いであれば
背け合う眼差し語る何語る煩わしいの一言語る
泡沫の檻ばらいそと感ずるや強き一歩に背中を向けて

無邪気さに回帰欲する時もありされど戻れぬ選びし故に
暖の為 一椀求む胸算用そうしてそれを二膳の箸で
薄布団朝陽の中で二人居て冷えた名残を只舐めあって
片恋の清算をする金曜日始めぬ恋は静かに埋めて
初恋の味と言い張る滴りを辟易しつつ転がしている
サヨナラをいっ切り出すかと指を折る突き撥ね愛情それさえ尽きた
ひっそりと均 一傘を処分するあれやこれやの想いとともに
猫の目の如き天気に右往左往吾弄ぶ君もその他も
戸惑いは恋知る前の欲由来愛を暫しの言い訳として
襟足の毛筋ひとつも愛しくて盛夏前にし暫しの思案

不意の雨寄り添いながら一つ傘濡れて行くには口実が要り
空調のほんの少しの冷ややかさ暖を求めて横の手握る
一先ずは一筆箋を選びおく絵柄にて言う駆け引きも良し
ただ五文字それを書けずに咳払い肌を重ねて誤魔化している
恋文の裏に用件書きなぐるいずれ捨てると覚悟の上で
空梅雨に振り回されて空笑い些細な慕情の補給も出来ず
僅かなる背中合わせの温みかな誰に憚る影心中に
替え下着フリーサイズで用意する君緩やかに吾満ち溢れ
夕立に心の中で手招きすMorningWood の身を持て余し
口実を得ては寄り添う相手見て吐息深める贅沢身上

傘開く昇る臭気とへの字眉それ視て笑う共犯愛し

引っ込めるふとした拍子に絡む指引き戻されて強く握られ

安らぎはひとっ布団のその中に舐めるな触るな獣になるな

遠目にてレインポンチョのシルエット閉じ込められた熱気を想う

残り香の不意打ち喰らい眉顰め消臭剤振る二仕事後

床一面脱ぎ散らかしたシャツの群れ二人の匂いが染み付いている

重なった脂肪愛しき…訳もなく共に剥ぎ取る日々細やかに

淡々とトラックバックを蹴返す恋文ならば少しは自重

戸惑いは速乾シャツの隙間から恥らうならば隠せよ莫迦が

ネクタイをゆるめ解きっ物思いいっそ縛るか自分のものと

土用丑二人連れ立ちひ つまぶし他の予定は今まだ白紙
着潰した半袖カッター抱きしめる仄かに残る名残を愛し
隷属を強いる貴方が騙る愛欲しくないから投げても良くて？
詰襟の色を変えたるその汗に嫉妬している片思い以下
新しきスーツに纏わるぎこちなさ首筋隠せば尚更の事
粛々と年度替りの机上なるついと滑らす不埒な誘い
学ランの下は何時ぞの形見なる残り香微か気の薪として
週末は宿題持ち寄り君が家されど日帰りただ自戒にて
「トモダチ」と自分に只管言い訳し煩わしさから二歩退いている
ひっそりと影から想う日々の中生理は別と割り切れもせず

軽々と言えぬ想いと軽き嘘日々の隅にてただ埋めている

想いごと受け継ぐ予定の学ランを愛しと思い少しは疎み

春雨に濡れた置き傘掠め取る言葉返さぬ君が形見に

冗談に紛らせボタンの予約する第二を避けて第三にして

日々を消す暦の裏に書き殴る言えない思いと言わない欲を

君が袖引かずにそっと感じてる変え行く為の一歩を欲し

在不在心の在り処疑いてただ目の前の何かに縋る

割り切れぬ肌と心の距離なれば顔を叛けてただ手を繋ぐ

自制心打っ遣りたくなる春なればネクタイの色それさえ吉兆

用意した今年の弁当二人分梅には早き如月野行き

恋文を書く手間惜しみ呟きっ一四〇字の自己逃避なる
裏腹な心身抱え持て余すそれぞれの春選んだ後で
横顔に惚れ直している二十五時無精髭さえ愛しく思え
疑いを抱く暇を厭うてるそれより肌の温みが大事
会える日を皮算用で数えてるお受験なんて壁には出来ず
愛はただその手にありと君は言う痛みばかりを私に委ね
今更の羞恥心など煩わしされど恥らう二人きりなら
さり気無く上着を借りる季節過ぎ借りっ放しの返しに惑う
マグカップわざと欠けさせ買い換える想い沿わさぬ揃いは苦痛
誘惑は吾がシャツ染める君が汗持ち堪えるは君が信故

間違えた振りして遣う諸々に返事の如き印のありて

暦見て節理とは言え身悶える血迷い罵る夏休みかな

寄り添いは秋の所為だと言い訳し寄りかかって来る背中の熱さ

寂しきは一人で過ごす夜でなく心が添わぬ二人居の寝屋

人の恋気に掛けている暇なく切れかけえにしを結んでばかり

口先で愛弄ぶ君に飽きこの身を満たす一瞬に飢え

恋心知る前色が染み付いてただ餓えている心の外が

恋心熱きものではあるけれど感じるべきは肌ではなくて

眠り癖互いに違う身であれば一つ枕は買えぬとおもう

秋の雨寄り添う為の口実に一つカップの珈琲旨し

懇々と 一人遊びの夜は過ぎて溢れ零れる熱だけ溜まり
意思もなく君が言葉を飲む事を愛の証とどの法が言う
君が手を視る事さえも厭うてる 『心当たりはある筈でしょう？』
制服の上着の汚れを気に病んで不意の 一言逃し口惜し
バランスを取り損ねている恋と欲墜ちて行くならどちらでも良く
高らかに謳い上げたい恋だから勝手な遠慮は見ない振りする
恋心鏡の外に置いてみる幻滅せぬ様割れ物留意
君が欲吾の日常食い荒らすどうせその後は放置の癖に
雄雄しさを振りかざしつつ取りすがる君への言葉を探しては消し
君が腕私を縛るそれだけでいざの背中を押してはくれぬ

綾織の派手な色目は無いけれど君 一筋の輝きはあり
哂わせる予定調和の恋なんてどうせ酔うなら劣情が良い
望むのは二人漂うそれだけで熱発電は瞬間でだけ
燃え上がるご都合主義の君をみてただ淡々と僕は醒め行く
声殺し涙溢るる君の居てただ呆然と対する自分
彼是と週末のこと考えてその指先の温度に慄く
未だなお慣れぬ手つきの不器用さ愛しと思い背を撫で上げる
ポジションを変えて気付いた事多し漢の匂う顎の下など
クールビズ彼是選ぶ複雑にネクタイ遊びに未練がありて
無造作な君の抜け殻拾い寄せ名残惜しみっさて渦の中

遠巻きに見ていた頃のときめきを抱きしめられっつ感じる今は
のろのろと君と眺める雨上がり重みの名残がまだ心地良い
キミハキミワタシハワタシと突き放す色恋沙汰であるから尚更
じゃれかかる君の重みに背を伸ばす君が安らぐ場所で在ろうと
梅雨寒に便利だからと抱き寄せる体温の差で年の差を知り
仕舞い込む冬のズボンのしみ見つけ心当たりに身悶えをする
行楽の第一希望は君が傍近くて遠い距離埋めたくて
人生の何割君に費やそう今は昔の煩悶なれば
前倒し学ランそっと洗い出し隣を見れば君のブレザー
ネクタイのだらしなささえ愛しくて血迷いかけるもまだ今職場

ごりごりとミル回す手のその強さ昨夜の繊細秘めてる不思議
合間見て換えたシーツの色合いに色々重ね暫し黙する
粘りつく心の汗に辟易し二人寝床をそっと抜け出す
吊るし売る揃い甚平さりげなく二人で纏い手は繋がずに
淡々と君のからだに二筋の爪痕遺し盟約とする
黙々と一人で恋を抱きしめる友の振りして思いを仕舞い
吾等二十歳この劣情を保ちつつ寄り添う為の理由を探す
世事捨てて二人こもりつ別世界恵比寿の声を背中で聞いて
思いつくまま吾愛す君の様張子の虎の首振りに似て
恋なのか欲なのかさえ曖昧でただ揺れている朝焼の底

休み明け備えてネクタイ選ぶ横諸肌脱ぎの君が寝入るよ
一年は至極あっさりすぎてゆく君の薄情淡々と載せ
吊るし売る揃い甚平さりげなく二人で纏い手は繋がずに
今見ない汗ではりつく君のシャツクールビズなら仕方もないが
二人寝も心の中は空っ風懐炉代わりに互いを抱いて
クリスマス嗚呼クリスマスクリスマス僕等の横だけさっさと過ぎて
どさくさに君がネクタイ寒晒し鮮やかな色何かを戻し
指先が触れただけでも恥ずかしい他の肌なら重ねてるのに
折も折紅く染まるは二人だけテストの結果は敢えて無視する
行く春も逗まる春も春は春腐れ縁でもえにしであるし

そろそろと制服お直し考えっ第二ボタンの付け替え思案
制服の残り香惜しみぐずぐずと洗い損ねて静かに傷む
ネクタイに込めた想いを噛み締めて夜の片隅二人で沈む
今はただ魚の嘘に紛れさせ寄り添っているそれだけで良い
取り敢えず手附の為の初任給二人の為の一歩と思い
もう直に枯れると思い日々重ねそして今尚まだ滴りて
ときめきを伝える言葉見つからず肌の熱さに託してみたり
ひらひらとラップタオルの隙間から覗いているのは好意か欲か
台風の底で静かに重ねあう互い信じる二人の時間
ネクタイの鬱陶しさに項垂れっ君がネクタイ現金に愛で

ひっそりと想い温め横にいる伝える欲なぞもう疾うに無く
クールビズ託けている薄着なぞ気にせぬ風に君は頬染め
恥じらいのひとひらさえも脱ぎ捨ててただ立て篭もる想いの中に
追いっこう追いっこうとなお足掻けども君は先行く恋より早く
淡々と恋文綴る君の横堅い項についぃ息を呑む
今更に恋とは言えず悶々と薄くて堅い空気を隔て
愛だとは気付かぬ儘に戯れて愛しみ惜しむはなくした後で
いっそなら水着逢瀬も悪くないどうせ諸共濡れるのならば
だらだらと横になりっつ寄り添って雄の不便を束の間忘れ
虫の跡気にせずとも好い夏となりついた頻度の反比例なる

始まったばかりの休みを疎んでる君が居ないと只それだけで
気が付けば会話の内容年を食い二人でいる故万年十代
しみじみと互いの白髪に感じ入るまだ惑いありもう枯れていて
冷房の中不自然に寄り添って一度の上下に一喜一憂
ゴーヤ垣折々見ては息をつくいっそそれほど絡んでみたく
僕一人臆病だったの思い込み君の震える肩を見るまで
恋じゃなく欲だと結局割りきって朝の余韻を貪る二人
あやふやに自分の恋さえ誤魔化して一筋なのは白き滴り
明けぬ梅雨恨めし半分謝辞半分寄り添い加減は自己責任か
まだ明けぬ梅雨に足止め食らいっつ二人で過ごす湿り気の底

そしてなお縋って進む夏の底汗の違いで想いを知って
節電を口実にした二人寝に中々寝付けず疑問を抱く
そろそろと風を通した制服に足りぬ薫りに思いをはせる
ゆらゆらと一年ぶりの走馬灯君との距離は両手を超えて
淡々と走馬燈にて出迎えるあれからずっと時間は続き

「ＢＬみそひともじ彷徨纏め」二〇一三年三月十日配信分まで
都合八回分をまとめました。

奥付

Ｂｏｙｓ Ｌｏｖｅみそひともじ彷徨拾遺

【二〇一三年十一月三日初版】

ぶどううり・くすこ（葡萄瓜ＸＱＯ）個人誌

http://blogs.yahoo.co.jp/xqo_gm/　xqo_gm@yahoo.co.jp

はんなり明朝フォントを使用させて戴きました。

http://typingart.net/

BoysLoveみそひともじ彷徨拾遺

http://p.booklog.jp/book/78675

著者 : ぶどううり・くすこ
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/xqo/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/78675

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/78675

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ